

香港のアマさん

香港駐在員事務所

秘書 Hau Siu Yun, June

「アマさん」とは英語で“amah”、中国語で“阿媽”、と表記される家政婦（お手伝いさん）のことです。家政婦といえば日本では富裕層が雇用しているイメージがありますが、香港では一般の家庭でも雇用されています。香港の総世帯数約 200 万戸に対してアマさんが約 22 万人いることから、香港では“アマさん（家政婦）”がいかに一般化しているかを伺うことができます。

香港では 1970 年代には香港人のアマさんを雇う習慣がありましたが、ごく一部の富裕層に限られていました。1980 年代に入ると急激な経済発展に伴い、それまで家事に従事していた香港人の主婦らが工場やオフィス等（家庭から）外へ出て働くようになりました。家庭と仕事の両立で女性の負担は大きくなる一方、家庭内での家事・育児の分担や保育施設の整備は一向に進まず人手不足が深刻化した為、当時の香港政庁は香港人の主婦に代わって家事を担当する外国人家事労働者の受入を開始しました。現在では主にフィリピン、インドネシア、タイ等東南アジアの女性が活躍しており、中でもフィリピン人が大多数を占めています。

香港でアマさんが一般化した理由の 1 つに、男女平等社会の慣習があることや、世界的に不動産賃料相場の高い地域（場所にもよりますが、不動産賃料は東京以上の水準にあり世界でもトップクラス）であり、共働きでなければ住宅の家賃を支払うことができなくなるという事情もあったようです。

香港政庁主導で外国人アマさんの雇用を促進した為、雇用に関する法律で以下の様な保護を受けています。

- ・月額最低 3,400 香港ドル（約 5~6 万円）の給料を支払う
 - ・2 年に一度故郷へ里帰りをさせる（費用負担は雇用者）
 - ・週休 1 日制、年間有給休暇 1 週間、病気休暇を保障
 - ・雇用者は給料の他、住居および食費を保障
 - ・3 ヶ月間の産休を保障（産休期間は有給）
 - ・退職金支給を保障（但し、同じ雇用者の元で 6 年以上働いた場合のみ）
 - ・雇用者は医療費を保障
- 等々

これらの法律は、アマさんが不当に安い賃金で雇用されることを防ぐと共に、海外の安い労働力から香港人労働者を守るという役割も持っています。

アマさんは炊事、洗濯、掃除等家事全般を担当し、子供や同居しているお年寄りの世話もこなします。最近では母国で大学を出ているアマさんも多く、中には子供たちの勉強をみたり、ピアノを教えたりすることもあります。特にフィリピン人のアマさんが多い為、子供にとっては自然と英語に親しめる環境となっています。その影響で、香港の子供は幼少期より英語・北京語・広東語を操る“バイリンガルキッズ（多くの言語を話せる子供）”の割合が多いわけです。

香港のアマさんは法律で週1日の休みが保障されていますが、キリスト教信仰の関係から大半が日曜日となっています。日曜日になるとアマさん達は朝早くから夜遅くまで、故郷の友達と公園やビルの谷間に集い、お互いに持ち寄った料理を食べ、音楽に合わせて踊り、おしゃべりやトランプに熱中しています。オフィス街の中心“セントラル”のビル通路や、繁華街に隣接する“ビクトリアパーク”は一面がアマさんで埋め尽くされ、現在では週末の香港の風物詩ともなっています（写真一、二参照）。

香港では“アマさん”の存在のおかげで、日本と比べて女性の社会進出が進んでいるような気が致します。日本でも将来“アマさん”が一般化すれば、女性の社会進出が一層と進行するのではないのでしょうか？

写真一

日曜日のセントラルは、まるで“リトル・マニラ”のようです。



写真二

アマさんにとって休日の仲間たちとの集会は一番の楽しみとなっています。

